

令和7年度調査結果概要【九州農政局】

◎令和7年度外来生物駆除手法等検討調査（福津地区）結果概要（調査期間：R5～7）

- ◆ 古堂池において、アメリカザリガニ（以下「ザリガニ」）の効率的かつ効果的な駆除手法の検討のため、トラップ採集及び任意採集による駆除調査を実施した。
- ◆ 令和7年度は調査回が進むにつれ採捕数の減少傾向がみられた。また、水生生物等の生育に関しても回復傾向にあった。
- ◆ 今後の駆除活動につなげていただけるよう地域住民に対し見学会・ワークショップを開催し、駆除手法や駆除後の活用方法等について意見交換を行った。

1 調査概要

農業用ため池におけるザリガニの駆除に係る効果的な対策手法等を整理し、技術資料に資する基礎データを収集するため、福岡県福津市内のため池を調査地点として設定した（図1及び図2）。

ザリガニの駆除は、9～10月にかけて表1に示す駆除作業を4回行った。

表1 駆除作業の実施方法、捕獲努力量

駆除作業	実施方法	捕獲努力量
任意採集	タモ網、サデ網	1地点当たり3人で10分間の採集を3地点*で実施
トラップ採集	あなごカゴ	15個設置し、翌日回収
	連続捕獲装置	5個設置し、2週間後を目途に回収
	人工巣穴	5個設置し、2週間後を目途に回収

※生息可能性が高い浅瀬や植生のある場所等で実施



図1 調査位置図



図2 古堂池

2 調査結果

(1) 採捕調査結果

令和7年度の累計駆除数は1,061個体で、各調査回で比較すると4回の調査が進むにつれ採捕個体数が減少した（図3）。

手法別に比較すると、採捕数が多い順に連続捕獲装置が438個体、あなごカゴが414個体、タモ網・サデ網が189個体、人工巣穴が20個体であった。このうち、抱卵・抱稚仔ザリガニ個体の採捕割合は、人工巣穴で最も多くなった（表2）。

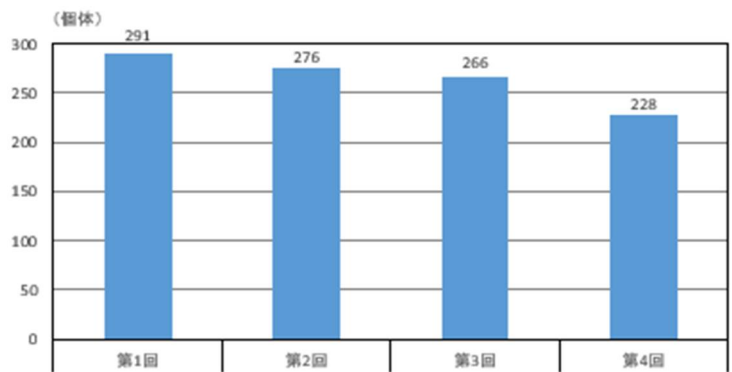


図3 アメリカザリガニ採捕数の推移

表2 手法別の抱卵・抱稚仔ザリガニ個体の採捕数

手法	採捕数 (①)	抱卵・抱稚仔ザリガニ個体の採捕数			割合 (②/①)
		抱卵	抱稚仔ザリガニ	合計 (②)	
タモ網・サデ網	189	1	0	1	0.5%
あなごカゴ	414	2	0	2	0.1%
連続捕獲装置	438	0	0	0	0.0%
人工巣穴	20	1	1	2	10.0%

手法別の頭胸甲長のサイズ毎の採捕個体数について、中型個体及び大型個体の採捕数が多かったのは、あなごカゴと連続捕獲装置（トラップ採集）であった。小型個体は、タモ網・サデ網で多く採捕された（表3）。

表3 手法別の頭胸甲長のサイズ毎の採捕数

手法	サイズ			合計
	小型	中型	大型	
タモ網・サデ網	43	122	24	189
あなごカゴ	0	26	388	414
連続捕獲装置	0	29	409	438
人工巣穴	0	3	17	20

(2) 環境再生状況

生物生息調査による環境再生状況について、魚介類（貝類、甲殻類、魚類）は令和5年度は7種、令和7年度は5種が確認された。両生類はいずれの年度もウシガエル1種のみ確認された。水生昆虫類は令和5年度は21種、令和7年度は23種確認された。水生植物は、いずれの年度も4種、コオイムシ等の重要種（環境省レッドリストや福岡県レッドデータブック掲載種）は令和5年度は4種、令和7年度は6種が確認された。外来種は、令和5年は4種、令和7年度は5種が確認された。令和7年度は、令和5年度と比較すると、ため池の水生植物（スイレン）の範囲拡大やヒシの生育も確認された（図4、図5）。



図4 ヒシの生育状況



図5 スイレン生育状況

(3) 普及・啓発のための地域住民に対する見学会・ワークショップの実施

地域住民を対象とした見学会・ワークショップを開催し、8名の地域住民と2名の市役所職員が参加した。見学会では、抱卵・抱稚仔ザリガニ個体の展示、あなごカゴと人工巣穴を用いた駆除について実演を交えつつ説明を行った（図6）。また、本調査の結果やザリガニの生態、駆除後の個体の活用方法などを取りまとめた資料を基に、地域住民と意見交換を行うワークショップも開催した。地域住民からは、駆除方法や漁具の調達等について積極的な質疑も行われ、継続的な駆除活動に向け期待が持てる取組になったと考える。



図6 見学会の様子

(4) まとめ

トラップ採集は、任意採集より多くの個体を採捕でき、大型個体の採捕に適していることが分かった。また、小型個体の採捕も次年度以降の生息数の減少に寄与するため、小型個体の採捕に適した任意採集（表3）と組み合わせての実施や、抱卵・抱稚仔ザリガニ個体の採捕数が多い人工巣穴（表2）も組み合わせての実施が望ましい。

ザリガニは、生きものの隠れ家となる植物を食べるため、水生植物を切除する習性がある。そのため、スイレンの範囲拡大やヒシの生育はザリガニ駆除の成果であると考えられる。一方で、スイレンやヒシは過度に増殖すると、ため池内の取水施設の通水阻害や生物相の多様性への影響も考えられるため、過度な増殖を防ぐため、ザリガニ駆除の継続と並行して水生動植物のモニタリングを行い、結果を確認しつつ注視していくことが望ましいと考えられる。

3 成果の活用方針

調査で得られた知見は、農林水産省が作成する農業水利施設におけるザリガニ駆除対策等に係る技術資料の基礎データとして活用し、調査を行った福津市や古堂池周辺地域を対象に普及啓発を行う。

4 お問合せ先

農林水産省九州農政局農村振興部農村環境課
代表： 096-300-6443